猪高の森自然観察だより　5 月号

開催日時:2022年 5 月 22 日(日)　9:30～12:00
天候:晴　　気温:最低 15.7℃、最高 27.6℃
テーマ：新緑のいろいろと緑の棚田
参加者構成：一般 14 名（内 NACS-J 指導員 2 名）
コース：森の集会所　→　塚ノ杁池堤体　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　ハンノキ湿地　→　井堀の棚田　→　井堀の大クス　→　森の集会所

４月と５月は、花の入れ替わりが大変激しい時期です。１週間や１０日で咲いている花が、異なっていることがよくあります。天候の変化に加え、気温差も１０℃以上の日がままあり、生き物たちの活動も日々変化する時期でもあります。(画像は別の日に撮影したものを含みます)

●ハチクの花が咲きました。

種類により、60～120 年に一度開花する竹の花。120 年に一度のハチク（淡竹）の花が確認出来ました。

前回、全国的に確認されたのが 1908 年、10 年ほど前から国内のあちこちで開花が始まっていましたが、今回猪高の森でも見られたことになります。

ハチクは日本に以前からあった種類（他説あり）で、開花後は地上部が枯れ、残った地下茎から再び芽を出し、竹林を再生します。

身近な竹林の様子が「何か、変！」と感じたらよく観察してみてください。花が咲いているかも知れません。

●カルガモ親子が今年も見られました。

３羽の雛を連れていました。雛の数は、カルガモにしては少ないため、既に捕食者たちや事故にあったかもしれません。

出会えたらラッキーですね。

●柳絮（りゅうじょ）って何？

柳絮とは「**柳の花が咲いた後、白い綿毛のある種子が散るさま。また、その種子。やなぎのわた。降る雪の形容にも用いられ**る。」（日本国語大辞典より）

左は、**マルバヤナギ**の花、右は降り積もった柳絮で真っ白になってしまった散策路です。風に乗ってフワフワと舞うヤナギの種の光景は、幻想的で不思議な感じ。

これもまた１年に１回の猪高の森のイベントです。

●鳥たちの子育ての季節です。

左はセグロセキレイの親鳥が巣立ちをしたヒナに給餌をしている貴重な写真です。後ろ姿の親鳥が大きく口を開けたヒナに与えています。

前述のカルガモも含め、シジュウカラやヤマガラ、ツバメ、スズメなどの小鳥たちの繁殖の時期です。注意して見ていると、口の周りがまだ、黄色い、ちょっと動きが今一つの鳥が、しっかりした足取りの鳥と一緒にいることがよくあります。たいていは親子と思ってよいようです。

●水辺の棚田エリアもにぎやかです。

冬眠から覚めたカエル達、トノサマガエルの産卵とオタマジャクシ、トンボの出現、ホウネンエビ、５月には田植えも行われました。ここは、無農薬で稲を育て、落ち葉を肥料にしているので、生物多様性に富んだ場所になっています。

トノサマガエル

トノサマガエル
卵塊

トノサマガエル
オタマジャクシ

ヌマガエル

ホウネンエビ

シオヤトンボ（雌）

●ショウブの花は目立たない！？

ショウブの花

アヤメの花

端午の節句にショウブ湯として使われる草の花がこれっ！アヤメ科のハナショウブと混同されることの多い植物です。姿が刀に似ていることや茎葉全体から芳香を放つことから、縁起の良い植物とされ、古来より利用されています。最近の分類の APG 体系では，ショウブ科になっていますが、旧分類ではサトイモ科になっていることがあります。

●覚えて欲しい幼虫たち

シロシタホタルガ

ヒメジャノメ

ルリタテハ

特徴のある幼虫たちです。いずれも毒はありません。
左はシロシタホタルガ。この姿を見て「ねこバス」のようだと形容した方が見えました。食樹はサワフタギやクロミノニシゴリなどのハイノキ科の樹です。春～初夏の年１回の発生です。

中はヒメジャノメ。頭部が猫の顔のような形をしています。頭に角のような突起がある幼虫は、ヒカゲチョウやジャノメチョウなどタテハチョウ科の幼虫を疑ってください。（角のないタイプもいます。）食草はススキやスゲなどのイネ科やカヤツリグサ科の草です。１年に２～４回の発生です。

右はルリタテハ。如何にも恐ろし気な姿です。サルトリイバラやホトトギスなどのユリ科の葉を食べます。１年に１～３回の発生です。

下に成虫の画像を載せます。参考にしてください。

シロシタホタルガ

ヒメジャノメ

ルリタテハ

●翅の模様を見てほしい、ガの仲間たち

嫌われがちなガの仲間たちですが、一度その翅の模様をじっくりとみてください。中々の業物（わざもの）ですよ。（名前は次号で紹介します。今回は模様の観察です）

チョウの種類よりはるかに多くの種類がガの仲間に含まれています。そもそも、このふたつの仲間のはっきりした区別はないのです。中間的な仲間もあって、人が便宜的に分けているに過ぎません。毒蛾があるようにアサギマダラやジャコウアゲハ、カバマダラのように毒蝶だっています。不用意にさわることがなければ、心配することはありません。

名前がわからなくてもよいのです。

お試しに観察してみてはいかがでしょうか？

●草の実、樹の花

ヘビイチゴ

キツネノボタン

サルトリイバラ

ヤマウルシ

センダン

ガマズミ

ユズ

ウツギ

スイカズラ

ノイバラ

カジイチゴ

ナツハゼ

ナワシロイチゴ

ネジキ

クサイチゴ

草の花は少なくなってきますが、樹の花は５月にはまだまだ見られます。その代わりに緑が濃くなり、虫や動物たちの活動が活発になってきます。

次回の観察会は　６月２６日（日）　森の集会所集合　９：３０～です。

ベニカミキリ

アカシジミ

キセルガイの仲間